

一世紀を超す台湾と日本の建設技術の掛け橋

スーパーゼネコンの筆頭である鹿島建設(株)は、1899年(明治22年)に台湾営業所を設立して以来、既に台湾において一世紀を超える歴史を持ち、台湾国内の数多くの重要な公共工事を手がけるとともに、日系企業のみならず台湾企業からも受注を獲得する台湾でも有数の建設業者の一つとなっている。

今回は鹿島建設の台湾総代表であり現地法人中鹿營造の董事長も兼任する船本洋治氏に台湾の建設事業の現状等についてお話を伺った。

鹿島建設台湾総代表兼
中鹿營造(股) 董事長
船本洋治氏



100年を超す台湾での歴史

当社は現在、主として2つの事業体で台湾での営業を行っています。一つは日商鹿島營造公司(日本鹿島建設の台湾支店)で大型公共土木工事を担当し、もう一つは現地法人の中鹿營造股份有限公司で、建築工事と比較的規模の小さな公共土木工事を施工しています。

当社は、台湾において100年を越す歴史を有しています。1899年に台湾営業所を設置し、戦前には日月潭工事、八田與一技師で有名な嘉南大圳工事、大甲溪発電所、鉄道など多くのインフラ事業に参画してきました。鉄道は、在来線総延長の40%を施工しました。

戦後も、戦前からの実績を買われ、曾文水庫ダム(技術顧問)や、政府の推進する十大建設のうち中国造船、中国鋼鉄、台中港(技術顧問)、北廻り鉄道工事、12項建設のうち日月潭揚水式地下発電所2基(260万kw)、また台北地下鉄工事などに参加してきました。これらの大型公共工事は、いずれも国際入札あるいは、国家重大建設のために鹿島の参加が特別に認められたもので、一般の工事を行う為には、台湾国内の營造許可(建設業許可)が必要です。そのため、1983

年に鹿島建設100%独資の現地法人中鹿營造(股)を設立しました。

その後、台湾がWTOに加盟する事に関連した経済開放政策により、外国企業の台湾支店にも營造権が与えられることになり、1999年新たに「日商鹿島營造公司」として營造許可を取得し、大型公共工事に参画しています。

最近の事業状況

現在、日商鹿島營造と中鹿營造とを合わせた従業員数は、台湾籍500名、日本籍100名となっています。近年、政府の大型公共投資と台湾経済の活況の影響を受け、日商鹿島營造公司・中鹿營造共に多くの受注を抱えています。

日商鹿島營造公司の行う大型公共工事は、台湾企業とのJV方式で台湾電力龍門原子力発電所の排水放流管工事、經濟部水利署の基隆河洪水調節トンネル工事、台北市MRT新線工事3工区、高雄KRTC1工区の計6件です。基隆河洪水調節トンネル工事は、汐止市民、台北市民を洪水から守る重要なインフラ設備で、工期を急ぐ上に技術的に難しいため、価格要因以外にも当社の技術と信用とが評価され必ずし

日本企業から見た台湾

も最低価格ではなかったが当社グループが受注し、年末には完成します。

中鹿營造が行う建築工事は、現在、特に液晶関連の大型設備投資が活況を呈していることから、例年より多い手持工事高を抱えています。現在施工中の工事は21現場ありますが、主なものとしては液晶関連のカラーフィルター工場、偏光板工場、ガラス基盤工場、広輝電子（ODI）龍潭工場、台湾高速鉄道（新幹線）関連では高雄総操車場・台中操車場、その他台北最大の高級マンション「帝寶」を始めマンション5現場、オフィスビルなどがあります。

このように多くの注文をいただいている事は大変ありがたく感謝をしています。しかし一方で、2003年10月からの急激な建設関係資材の価格高騰や作業員不足もあり、日商鹿島・中鹿營造共に頭の痛い点多いです。

台湾での付加サービス

中鹿營造として、これまで既に50社の日系のお客様、30社の台湾資本のお客様から工事を頂戴してきました。工事をきちんと完工しアフターサービスに努めることは、どちらのお客様に向けても変わる所はありませんが、特に日系企業のお客様には、台湾での用地探しや、工場建設等に伴う官庁への諸申請のお手伝いをさせて頂くことにも重点をおいています。

また、台湾系のお客様に対しては、日本訪問の折り鹿島本体や現場を視察して頂き鹿島の技術・文化をご理解頂くことや、日本の建設や土地開発に関する情報の提供、その他「日本の鹿島」としてできるサービスをさせて頂くよう努めています。

当社は、台湾へ来て105年の歴史を持つわけですが、私自身も既に初めての台湾勤務から29年が経ちました。これまで、台湾籍・日本籍を問わず大変多くの方々からお世話になりました。建設業は多くの方々に支えられて成り立っています。社内でも、日頃お世話

になっている台湾の社会全体に対し感謝の気持ちを持つ事が大切であると強調しています。

台湾と日本の建設技術の掛け橋

台湾において、当社の存在が他の地元建設業と比較して大きいと言うことはなく、言葉や商習慣の面でも台湾企業と比較して制限を受けます。その点を念頭に入れ、明治32年以来、1972年の日台国交断絶時にも些かも揺らくことのなかった台湾と鹿島との関係を、これからも細くても良いから「長く」続けることを重視したいと考えています。

当社では、長年にわたり次のような経営理念、目標を達成するよう努めています。

- 1). 建設工事を通して日台の技術文化交流を図る。
- 2). 鹿島の技術を台湾で投影し発揮する。
- 3). 現地化の推進。
- 4). 会社のモットーは「誠実、謙虚、邁進」

以上の目標の下、現地化という面では、既に台湾籍社員の現場所長、工事長もかなりの数が育っています。

また、建設技術を通じた貢献と言う面では、これまで同様、台湾の近代設備建設のために力を尽くしていきたいと考えております。幸い日本の鹿島には、どのようなご要望にも応えられる深みと幅を持った技術がありますので、その技術を台湾で生かし、「建設技術の掛け橋」となることが我々の役目であると考えています。



台湾水泥大樓



國瑞汽車工廠、豐永汽車工廠